L'ENFANCE DE JEANNE D'ARC

JEANNETTE

JEAN BRÉHAT RACHID BOUCHAREB MURIEL MERLIN ARTE PRÉSENTENT UN FILM DE BRUNO DUMONT
AVEC LISE LEPLAT PRUDHOMME, JEANNE VOISIN, LUCILE GAUTHIER, VICTORIA LEFEBVRE, ALICE CHARLES, ELISE CHARLES, NICOLAS LECLAIRE, ANAÏS RIVIÈRE, GERY DE POORTER, REGINE DELALIN SCÉNARIO ET RÉALISATION BRUNO DUMONT ADAPTÉ DE CHARLES PEGUY « *JEANNE D'ARC* » (1897) ET DE « *LE MYSTÈRE DE LA CHARITÉ DE JEANNE D'ARC* » (1910) MUSIQUE ORIGINALE IGORRR CO-COMPOSITIONS NILS CHEVILLE, LAURE LE PRUNENEC, ALINE CHARLES, ELISE CHARLES, ANAÏS RIVIÈRE CHORÉGRAPHIES PHILIPPE DECOUFLÉ ASSISTÉ DE CLÉMENCE GALLIARD CHORÉGRAPHIES ADDITIONNELLES ALINE CHARLES, ELISE CHARLES, NICOLAS LECLAIRE, VICTORIA LEFEBVRE, JEANNE VOISIN DIRECTEUR DE LA PHOTOGRAPHIE GUILLAUME DEFFONTAINES MONTAGE BRUNO DUMONT ET BASILE BELKHIRI SON PHILIPPE LECOEUR MIXAGE EMMANUEL CROSET MONTAGE SON ROMAIN OZANNE DIRECTEUR DE PRODUCTION ET POST PRODUCTION CÉDRIC ETTOUATI 1er ASSISTANT RÉALISATEUR CLAUDE GUILLOUARD SCRIPTE VIRGINIE BARBAY CASTING CLÉMENT MORELLE DIRECTRICE DES DIALOGUES CATHERINE CHARRIER DIRECTRICE DES CHANTS LAURE LE PRUNENEC COSTUMES ALEXANDRA CHARLES MAQUILLAGE / COIFFURE SIMON LIVET RÉGISSEUR GÉNÉRAL EDOUARD SUEUR PHOTOGRAPHES ROGER ARPAJOU ET DAVID KOSKAS UNE COPRODUCTION TAOS FILMS, ARTE FRANCE, PICTANOVO ET LE SOUTIEN DE LA RÉGION HAUTS-DE-FRANCE EN PARTENARIAT AVEC LE CNC LE FRESNOY STUDIO NATIONAL DES ARTS CONTEMPORAINS AVEC LE SOUTIEN DE LA SACEM DÉVELOPPÉ AVEC LE SOUTIEN DE CINEMAGE 10 DÉVELOPPEMENT, COFINOVA DÉVELOPPEMENT 8, PROCIREP ANGOA VENTES INTERNATIONALES LUXBOX DISTRIBUTION MEMENTO FILMS DISTRIBUTION

arte TAOS FILMS Hauts-de-France Pictanovo LE FRESNOY Sacem Cinémage PROCIREP ANGOA LUXBOX memento FILMS jeannette-jeanne.com

監督・脚本：ブリュノ・デュモン　原作：シャルル・ペギー　撮影：ギヨーム・デフォンタン　音楽：Igorrr　振付：フィリップ・ドゥクフレ
出演：リーズ・ルプラ・プリュドム、ジャンヌ・ヴォワザン、リュシル・グーティエ　2017年｜112分｜カラー｜ビスタ｜フランス語
フランス｜日本語字幕：高部義之｜原題：Jeannette, l'enfance de Jeanne d'Arc｜英題：Jeannette, the childhood of Joan of Arc
配給：ユーロスペース　© 3B Productions

ジャネット

聖女の悲観、
魔女の絶望、
宿命の霊性、
絶対の孤独。

百年戦争、
羊たちとの生活、
神の声、
オルレアン解放、
異端審問、
愛国者の固執、
革命家の不安、
聖女の悲観、
魔女の絶望、
繰り返す厄難、
永遠の誓約、
宿命の霊性、
絶対の孤独――。

ジャンヌ・ダルクとは何か？

カトリックの聖女。あるいは魔女。神の恩寵を受け祖国を救う愛国的英雄。民衆を鼓舞する革命の偶像。異端審問の末に火炙りにされた男装の女騎士。フランス国民劇の受難のヒロイン。

疫病と戦争の最中にあった15世紀初頭のフランスに実在した少女の物語は、絵画、音楽、文学、演劇、漫画、ゲームなど芸術と娯楽の様々な領域で幾度も題材にされた。

映画史においても枚挙にいとまがない。ジョルジュ・メリエス、カール・テオドール・ドライヤー、セシル・B・デミル、ヴィクター・フレミング、オットー・プレミンジャー、ロベルト・ロッセリーニ、ロベール・ブレッソン、ジャック・リヴェット、リュック・ベッソン…歴々たる映画作家たちがこの「歴史劇」の古典に取り組んでいる。メロドラマとして、社会風刺劇として、スリル満点のスペクタクルとして、恐れ慄くような美／崇高に迫る実験作として。フランスやハリウッドで、翻案やパロディも含めれば世界中で、時代の折々に作られてきた「ジャンヌ・ダルク映画」。その最新の変奏がスクリーンに還ってくる。

監督は、現代フランス映画において二筋縄ではいかない挑発的な作品を発表してきた鬼才、ブリュノ・デュモン。原作は、シャルル・ペギーの劇作『ジャンヌ・ダルク』（1897）と『ジャンヌ・ダルクの愛の秘義』（1910）。ペギーは、ジル・ドゥルーズ、ヴァルター・ベンヤミン、ジャン＝リュック・ゴダール、そして須賀敦子らを魅了したカトリックの詩人・思想家であり、ジャンヌ・ダルクがイングランド軍から解放した都市オルレアンの出身。デュモンは、ジャンヌ・ダルクの生涯を特別な想いを持って描いたペギーの詩劇を、仰天ともいうべき演出・手法によって、二つの映画作品に仕上げた。

『ジャネット』では神の声を聞く体験と戦いに旅立つまでの幼年時代を、『ジャンヌ』では異端審問と火刑までを描いている。

スクリーン上にジャネット＝ジャンヌがいる。そこでジャネット＝ジャンヌは、歌い、踊り、ヘッドバンギングし、馬に乗り、甲冑を纏い、弁論し、抵抗し、何者にも支配されず、いつも孤独に闘っている。怠惰にも性急にも思える極めて独特な時間が全編にわたって流れる中、一体全体、何が起こっているのか!?

神話でも伝説でもなく、今、わたしたちの目の前で起こる現実の出来事として、ジャンヌ・ダルクが立っている。数多の「ジャンヌ・ダルク映画」とは全く別の様相を呈し、それまでのジャンヌ像を逆なでするかのような、ユニークでいて破壊的な本作。これは新たな視座からなされる「真なるもの」の探求なのだ。

画面を見つめながら震撼し、呆然とする間に途方もない地点へと連れ去られてしまう経験と体験。破局を目前にしたように凋落していく現代世界に対峙する、愛と神秘の歴史劇。

神的少女降臨

QUINZAINE DES RÉALISATEURS CANNES 第70回カンヌ国際映画祭「監督週間」正式出品

L'ENFANCE DE JEANNE D'ARC

JEANNETTE ジャネット

ジャンヌ・ダルクの幼年時代を描く、破壊的な音楽劇

1425年、フランスとイングランドによる王位継承権をめぐる「百年戦争」の真っただ中。幼いジャネット（ジャンヌ・ダルクの幼少期の呼び名）は、小さな村ドンレミで羊の世話をして暮らしていた。ある日、友だちのオーヴィエットに、イングランドによって引き起こされた耐え難い苦しみを打ち明ける。思い悩む少女を修道女のジェルヴェーズは諭そうとするが、ジャネットは神の声を聴く体験を通し、フランス王国を救うために武器を取る覚悟を決める……。

ジャンヌ・ダルクの幼年期が、奇妙奇天烈な破壊的ミュージカルに!? シャルル・ペギーのテキストの韻律に活力を与える歌。そこに響く激烈なる音楽。そして、あまりにぎこちない舞踊…。緊張と弛緩のとめどない反復の内に時間の感覚が消失し、奇異なまでの現代性が浮かび上がる。

音楽を担当するのは、デスメタル、プログレ、ブレイクコア、バロック音楽などの要素を取り込んだユニークなスタイルで活躍する異才Igorrr。振付は、現代フランスを代表するコレオグラファー、フィリップ・ドゥクフレが担当している。

監督・脚本：ブリュノ・デュモン　原作：シャルル・ペギー　撮影：ギヨーム・デフォンタン　音楽：Igorrr　振付：フィリップ・ドゥクフレ
出演：リーズ・ルブラ・ブリュドム、ジャンヌ・ヴォワザン、リュシル・グーティエ　配給：ユーロスペース　2017年｜112分｜カラー｜ビスタ｜フランス語｜フランス｜日本語字幕：高部義之｜原題：Jeannette, l'enfance de Jeanne d'Arc｜英題：Jeannette, the childhood of Joan of Arc　© 3B Productions

FESTIVAL DE CANNES 第72回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門 スペシャルメンション
第77回ルイ・デリュック賞 作品賞受賞

JEANNE ジャンヌ

救国の戦いから異端審問、そして刑の執行へ――華麗なる心理活劇

15世紀、フランスの王位継承をめぐって、フランスとイングランドが血で血を洗う争いの時代。若きジャンヌ・ダルクは、「フランスを救え」と言う神の声に導かれてフランス王の軍隊を率いていた。神、愛、罪、福音と祈りを説くジャンヌだが、その力に畏怖と疑心を持った味方の軍内部から反発が生じる。やがてジャンヌはイングランド側に捕らえられ、教会によって異端審問にかけられる。抑圧と支配の濃密な論理で迫る「雄弁」な男たちを相手に、反駁の叫びと沈黙で応じるジャンヌ。告発に屈せず、自らの霊性と使命に忠実であり続けるが…。馬術ショーのような戦闘場面。言葉が累積し充満する裁判場面。あまりに奇想天外な相貌を見せた『ジャネット』と打って変わり、様式的な画面と白熱の議論に彩られた、サスペンスとアクションが華麗に展開する。『クレールの膝』『満月の夜』などエリック・ロメール作品で知られる、ファブリス・ルキーニがフランス国王シャルル7世として出演。フランスの歌手クリストフが劇伴の作曲を担当。異端審問の陪席者の一人として不気味に出演し、その美しい歌声を聞かせている。

監督・脚本：ブリュノ・デュモン　原作：シャルル・ペギー　撮影：デイビット・シャンピル　音楽：クリストフ
出演：リーズ・ルブラ・ブリュドム、ファブリス・ルキーニ、クリストフ　配給：ユーロスペース　2019年｜138分｜カラー｜ビスタ｜フランス語｜フランス｜日本語字幕：高部義之｜原題：Jeanne｜英題：Joan of Arc　© 3B Productions

jeannette-jeanne.com

12/11 土 “愛と神秘”のロードショー

当日一般1,800円｜大学・専門学校生1,400円｜高校生800円｜中学生500円｜会員・シニア1,200円

渋谷・文化村前交差点左折
ユーロスペース
EUROSPACE
03-3461-0211 eurospace.co.jp